

協力団体 寒川町聴覚障害者協会
寒川町手をつなぐ育成会
寒川町視覚障害者福祉協会
茅ヶ崎地区自閉症児・者親の会

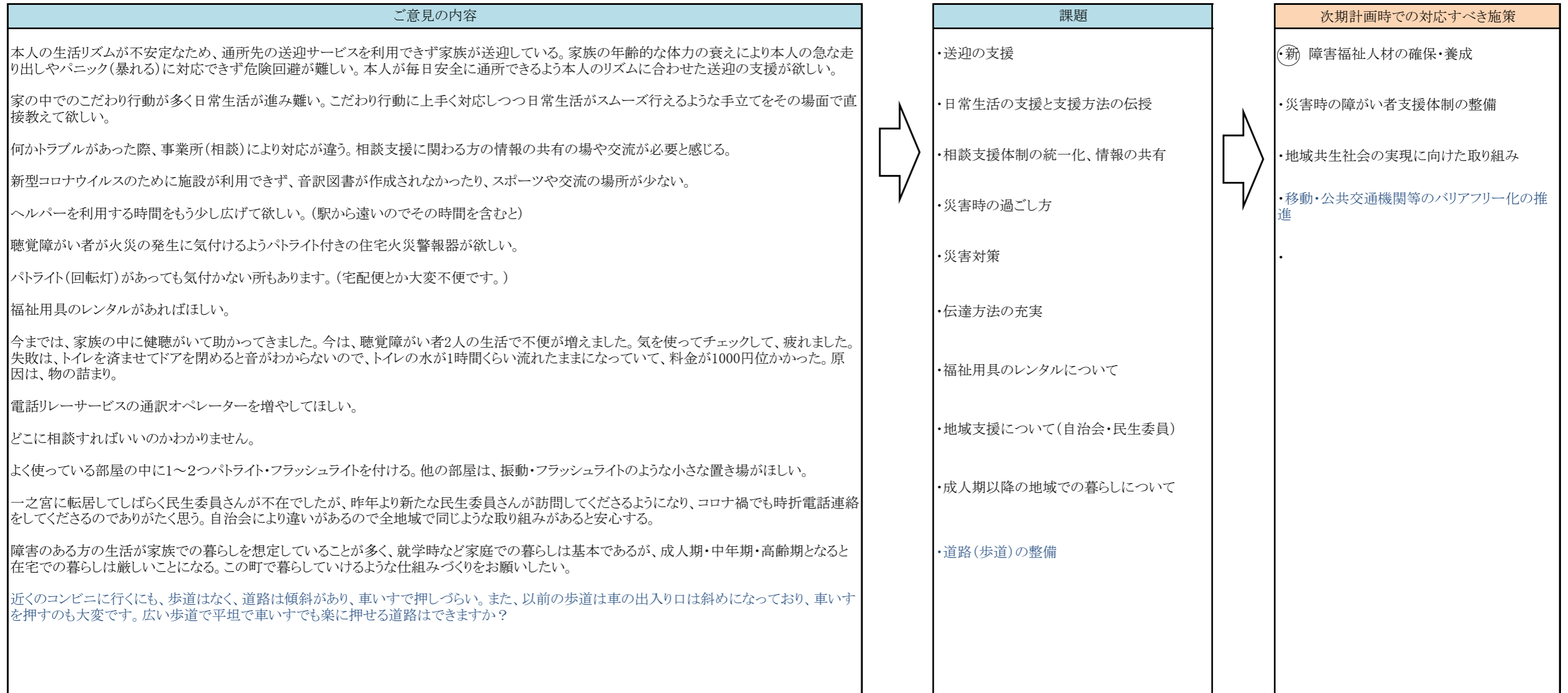
福祉団体へのアンケート結果からの主な課題について

～生活の状況について～

○日々の暮らしの中で困っていることはありますか。

※青字の記載について

障がいの種別に偏りがあったため、自立支援協議会委員にご協力いただき、追加でアンケートを実施いたしました。



○地域での暮らしの中で困っていることはありますか。

ご意見の内容
感覚が過敏なのでマスクが着用できず屋内などで非難の目を向けられたり、強く注意をされる事がある。マスク着用が難しい事を理解して欲しい。
昼夜を問わず大声を出したり床や壁を叩いてご近所に迷惑をかけていると思う。お詫びをしているが、常に負い目を感じてしまいストレスになっている。
災害が起こった際、避難所には到底行けません。家が水没しても崩壊しても、避難所での生活は無理だと思っています。自宅に発電機や食料は揃えてありますが、いつまでもつか心配です。
将来的に継続して相談していける場(人)がほしい。特に今は親が中心に相談その後本人に関わってくれる人がほしい。
発達障がいの理解得るのが難しい。親なき後、地域で生活できるか不安あり。
防災無線の音が聞き取りづらい。
災害にあった時災害弱者は一般の所では位置がわからないし声かけをしてほしい。みんなが集まれる所がほしいです。
住民間の聴覚障害理解
防災無線や広報車、町内放送が聞こえません。
隣近所の人とのコミュニケーションが少ない(あいさつ・簡単な会話くらい)
夜中近所で火事があっても、消防車・救急車の音が聞こえないので不安があります。
無人駅で声だけの呼び出しは不便です。
交番に行ってお巡りさんがいなくても、呼び出しは電話をかける方法のため不便。
病院での通訳を予約したい時、福祉課の手話通訳を通じて予約を取ることになっていますが、聴覚障がい者本人から直接予約したい。例)ラインで予約を取るとか、それなりの方法でできないでしょうか？
もし何があった時も、ろうあ夫婦暮らしの場合では、近所で助けてくれるかどうかわかりません。
もし災害が起こったら、耳が聞こえないため不安です。方法を教えてください。
アパート等を借りる際の交渉で断られたことが1回ありました。障がいへの理解がない？
地域で暮らすには資源がなく地域外となってしまう。
重度の方の通所場所と生活場所との移動がスムーズに行えないこと。(家族が在宅の場合で支援が可能なら問題はないが、支援ができない人の場合、事務所からの送迎が無ければ日中の活動の場が確保できない)
成人になった時の支援体制の不安(親・家族が支援していることが多い)
短期入所先が町内に無いため、片道1時間程度の施設へ送迎している。GHがあれば入居したいと思うが近隣に空きはなく、町内にはGHが不足している(特に女性が入居できるGH)このまま親が高齢になったらどうなるか不安。
家族ありきの世の中になっているのでいつまでも親は不安。成人したら親や家族も支援者となれるよう距離感を持てる関係になれるとよい。
通所施設は、町外で、町内にも通所施設はありますが、数が少ないので、その子にあった所を見つけられなく、町外に通っている。



課題
・障害に対する理解
・災害時の支援
・親の高齢化・親亡き後の生活について
・成人期以降の支援について
・手話通訳の予約方法
・地域でのコミュニケーション
・地域内の資源不足(GH、通所施設など)
・移動支援について



次期計画時での対応すべき施策
・障がいの特性および障がいのある人に対する理解の促進
・災害時の障がい者支援体制の整備
・地域共生社会の実現に向けた取り組み
・
・

～障がい福祉サービスについて～

○サービスを利用する際に困っていることはありますか。

ご意見の内容
将来に向けて家族からの独立(自立)を考えているが体験先が近隣にない。
重度障がい者が利用できる短期入所先が少ない。対応困難のため利用を断られた。
移動支援のヘルパーが足りず、移動支援を利用できない。(放課後デイサービスでは集団なので、個別の支援を受けさせたいです。〈集団は集団でいいところもあります。〉)
移動支援→ヘルパー不足で希望通り利用できない。緊急時→近くにSSがない。
ホームヘルパーが少ない。ガイドヘルパーが少ない。利用していて不満や困ったことがあっても言えない。
ショートステイ先が少ないので町で作業所とかショートステイができればいいです。
ヘルパーは出来れば、手話の出来る人がいてほしい。
健聴の手話ができる人の協力を得て、地域内で聴覚障害者が集えるデイサービスを開催して欲しい。 (寒川町聴覚者協会の会員数20人中、70%が高齢者)
通所・短期入所の施設がない。
GHが少ない。
タクシー券は家族の車が減免になっていると配付されないが、移動支援児等で利用したい場合も出てくる。(急な天候変化。本人の不調)
ヘルパーの数が少ない。急な時は友人に頼むこともある。
短期入所先が少ない。町内にはない。



課題
・施設の不足
・ヘルパーの不足
・地域内での集い
・タクシー券について
・



次期計画時での対応すべき施策
・ 新 障害福祉人材の確保・養成
・
・
・
・

○サービスを使用してよかった点、改善して欲しい点はありますか。

ご意見の内容
サービスの組み立てや変更を家族に代わって行っていただけて負担が減った。
準備から通所までの通所支援サービスがあると良い。
グループホームでの入浴、排せつ、食事の介助を十分に受けられるように、グループホームの中で外部のヘルパーを利用できると良い。
重度障がい者がグループホーム入居に向けて体験利用できるグループホームタイプの短期入所先が欲しい。
放課後デイサービスにて、時間に融通を利かせてくれるので有難い。
いい面ばかりの報告で、悪いこともあるはずなので、悪い面でも様子を教えて欲しいです。
地域の中で通所が出来、必要な対応をして頂ける事。
親以外の方との関わりで地域の方(一般の方)に本人を知ってもらう機会が得られる(移動支援)。
障がい特性対応の通所先が選べるほどない。
ヘルパーの技術の向上。利用者に寄り添ったサービスを提供してほしい。
ヘルパーと出かけて気分転換ができてよかったです。
寒川町メール配信サービス(防災情報)から安全確認になり、うれしいです。
筆談ボードを書いてくれる人がほしい。
使用してない。
サービス利用者を充実ください。
成人だが日中一時支援を利用している。皆さんによくしていただき本人が非常に楽しく笑顔で過ごせて幸せな時間です。
幼少期からサービスを利用してきたおかげで、本人の周りに家族以外の理解者が多くなり、成人期に自立がスムーズにできた。家族に寄り添って下さる人が多くいたことで家族も余裕ができ本人の成長と共に人の輪が広がったことは、本人・家族の貴重な財産となっている。今後は親亡きあとの問題を一緒に考えていけるとよい。
相談支援事業ができたことで、親・家族だけで悩まずにすんで困ったときなど間に入ってくれるので助かっている。本人サービスについての必要な書類が家族だけの保管でないこともよい。
入浴介助をヘルパー利用して、とても助かっている。親とヘルパーが入浴するので本人は安心している。ヘルパー2人で入浴介助ができるというのですが、本人が不安がるのを考えて、まだできない。



課題
・通所支援サービスの内容について
・グループホーム内での外部ヘルパーの利用
・重度障がい者向けグループホームの体験先について
・障がい特性に応じた通所先の不足
・筆談ボードの活用支援
・親亡き後の生活について



次期計画時での対応すべき施策
・地域共生社会の実現に向けた取り組み
・
・
・
・

その他、ご意見・ご要望などありましたらご記入ください。

ご意見の内容
町の中心部に福祉避難所を設置して欲しい。避難生活が中長期となった場合、薬(抗てんかん薬、睡眠剤、抗精神病薬など)の不足や本人の症状悪化が予測され、地域の避難所に滞在を続ける事に不安があります。障がいに関する相談をしたり、助言を受けながら滞在でき、薬や装具など補充や交換が必要な物を備えている福祉避難所が必要。
コロナ禍で主介護者である家族が感染してしまった場合、濃厚接触者である本人の介護をどうしたら良いか不安。感染した家族が安心して治療に専念できる仕組みが欲しい。
今後(親亡き後)本人が自宅で生活していくためにいろいろと相談にのってくれる人、安心して話のできる人がいてくれたらと思っています。よく地域で暮らしていくためにという事を聞きますが地域で一人で暮らしていくためにサポートしてくれる人、場があればとさがしています。
災害時の支援について、避難所での生活に不安あり。障がい、高齢の方用に専用の拠点が良い。
身内に不幸があってショートステイを頼んだのですが、いっぱい無理だったのもう一つの所も打診したとき(ちょうどノロウイルスで)無理でした。この時に利用できる場所があればいいです。
聞こえない利用者に対する呼び出しを振動ベルを活用するなど配慮して欲しい。 例)近所で火災となり消防車とか来るときに消防署からお知らせメールしてほしい。
救急車の中に、筆談ボードの用意があつて良かった。体の絵ボード・手話の絵ボード(絵のめくり用)があるとより助かります。
緊急があつた時に福祉課へ行くじゃなくて、タブレットを置いてほしい。 (文字を書くのが苦手、または、震えて書けない場合も、手話表現なら進めます。)
病院のFAX番号を教えてください。
店もFAXを入れてほしい(寒川町内半分以下)。交番も。
ひどく差別を受ける経験はないが、視線を感じたことは多々ある。以前と比べると障がいを持つ人を街で見かけることが多くなり少しづつ受け入れられているようにも思うが、もう一歩踏み出してもらい障がいを持つ人(外見でわかりにくい人も)が困っている様子の時は声をかけてもらえるような世の中になってくれたらと思います。娘は何度か助けられてきたので。
地域に生活介護事業所が少なく、また現在開所している事業所も定員等の関係で利用者の受け入れが難しくなっているそうなので将来子どもが養護学校を卒業したとき、通所できる生活介護事業所があるか不安です。
この街で生きてくことの大変さはあるが親としてのできる事を一つでも生きている間に成し遂げたいと思い育ててきた。大きな福祉制度の改革があつたが最終的には人とのつながりだと思う。
親亡き後の子供の生活は、今まで通り、家において、ヘルパー等利用できて生活できるのが一番いいですが、24時間対応は可能ですか？
公共施設の障害者トイレに、着替え、オムツ交換用のベットの設置。



課題
・福祉避難所の設置
・災害時の支援
・親亡き後の生活について
・施設の不足
・障がい者への配慮
・人とのつながり
・公共トイレの設備



次期計画時での対応すべき施策
・災害時の障がい者支援体制の整備
・地域共生社会の実現に向けた取り組み
・移動・公共交通機関等のバリアフリー化の推進
・
・